

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

【地域特性】

＜下和泉地区＞行事等を通じて連合町内会、地区社協が連携し、様々な拠点で活動を展開している。担い手の高齢化で世代交代が進んでいない。交通の便が悪く、外出しにくい状況がある。

＜富士見が丘地区＞約50年前に造成されたエリアが一斉に高齢化し、個別相談が増加。ゆめが丘駅周辺の開発が進み、住民の転入や交通量の増加等、様々な影響が予測される。

【方向性】 より身近な場所での活動促進と担い手の発掘、移動に関する支援を進めていく。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	住民主体の課題解決に向けた支援：移動販売や外出支援等の活動が、継続・発展できるよう、住民とともに検討します。企業や施設等の多様な主体と協力しながら、介護予防につながる取組を実施します。
☐	☒	認知症の人が安心できる地域づくり：認知症サポーター養成講座や認知症カフェの運営支援を通して住民の理解を広め、当事者・家族と地域をつなぎます。
☒	☐	地域に必要な事業の企画：子どもの居場所等を通じた多世代交流や、担い手の発掘につながる機会を設けます。また、身近な場所で講座等へ参加できるよう、活動の拠点を増やします。
☐	☒	住民と専門職の関係づくり：福祉施設が地域の講座や行事等へ参加し、関係づくりを進めます。また、ケアマネジャーと民生委員で個別ケース等の情報共有を図れる機会を設けます。
☐	☒	職員の資質向上と連携の促進：目標管理による人事考課等を活用し、職員に必要な知識・技術を身に付け、日常業務や会議等を通し協力体制の構築を進めます。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

- ① 泉サポートプロジェクトや施設連絡会を拡充し、企業や福祉施設等が地域住民と共に持続可能な地域づくりを進められた。（移動販売・サロンへの外出支援等）
- ② 認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・チームオレンジをとおして、学生から高齢者までの広い世代へ理解・啓発を進められた。
- ③ 「学齢期の居場所しもずく広場」を不登校児支援団体やボランティアと連携して開催している。また、センター・プラザまつりを通して多世代交流できる場を創出した。また、町内会館等を会場とすることや申込不要にする工夫により、身近で気軽に参加しやすい講座等の開催へと繋がった。
- ④ 民生・児童委員とケアマネジャーの勉強会をとおして、顔の見える関係づくりを進められた。
- ⑤ 日常的に職員同士でコミュニケーションを取り合い、課題を一緒に検討するなど、安定した職場運営の基盤づくりを進めた。

☐ 区からのコメント

・泉区アクションプランに基づく高齢者の生活支援の充実に向け、泉サポートプロジェクトや施設連絡会等を通じて地域施設、民間企業と連携し、高齢者の外出支援、講座への講師派遣、移動販売等の取組を進めていただきました。次年度も引き続き、アクションプランの推進にむけた各種取組の実施を期待しています。

・認知症支援事業では、チームオレンジの取組としてVRを使った体験型の講座と合わせ、認知症サポーター養成講座も行うことで、広い世代に認知症の理解を広めることができました。地区民児協や地区社協との情報共有や相談しやすい関係づくりなどを通じ、認知症の正しい理解に向けた取組を進められました。今後は、幅広い世代へ認知症の普及啓発を行うなど、引き続き地域全体での認知症に優しい街づくりを期待しています。

・高齢世代以外の住民との関係を築く機会の創出に積極的に取り組んでいます。地域における関係団体相互の交流の橋渡し役として、強みであるチーム力を活かしながら、担い手の確保などの地域課題の解決に向けた新たな取組の展開に期待します。